

③② 身近の自然を楽しむ 芦花公園で出会った犬たち

Enjoy the surrounding nature: Dogs encountered at Roka park 9/10/2023

吉野輝雄

今回は、芦花公園で出会う季節の花や草木ではなく、毎朝ラジオ体操の後に園内を散歩している中で出会った犬たちを紹介する。園内は歩いて1周しても15分程度で、ドックランも整備されているせいか、愛犬の散歩に恰好の場所となっており、実に多種多様な犬を見ることができる。(犬種名には無知なためネットで調べました。間違っている場合にはどうぞご指摘下さい。)

散歩の途中で度々出会う飼い主さんと犬との距離は自然と近くなり、出会うと犬の頭と体を撫でて再会の挨拶をするようになっていく(最初の3匹犬たちの写真)。

黒柴犬は、体操の最中はじっと座って待っているが、終わると飛び跳ねて来て、口を開き噛む寸前まで私の手を口にはさんで戯れる。ほんとうにかわいい。牧羊犬兄弟(コタロウとレン)は、とても賢く、会うと身体を寄せて来る愛らしい犬だ。性格の違い(率直なコタロウと状況を読みながら行動するレン)も愛おしい。飼い主夫妻に愛情もって育てられ躱けられていることが伺える。昔のスピッツはキャンキャンとうるさく吠えるので好きになれなかったが、毛並みの美しい日本スピッツ兄弟は全く違っておとなしいので、可愛く思える。出会うとうれしく心も安らぐ。

次は、他では見る事のないユニークな3種の犬。第一は、カラス(烏)に“一心”のイングリッシュポインター。公園内の烏との出会いを求め、金網フェンスの中からしっぽを振りながら飛来する烏を見つめている場面を度々見た。ある時、フェンス外で同じ姿で烏をじっと見つめていた。決して脅すことなく、紳士的で一途な犬の烏愛に感動した。

2匹目のジャック・ラッセル・テリアは、茶色の体毛の一部が自分(犬)の体形のスタンプのようで、思わず笑ってしまった!

3匹目は、後ろ足が不自由なフレンチ・ブルドック。自力で車椅子を引いて公園内を健気に前へ前へと進む姿と誇り高い表情に心打たれた。

園内にはドッグランが作られており、登録した犬たちが思い思いに駆け走り、戯れている。その中で、一際目を惹かれたのは、飼い主が投げるゴムボールを一生懸命追いかけ、口にくわえて全速力で主人の足下に戻って来る小型犬(ボストン・テリア)だ。もっとももっととねだる動作(サーカス芸のように/向上心の見本のように)を繰り返している。時には、空中に投げられたボールを口でキャッチし、得意顔で戻る。

園内を歩いていると、映画や絵本で出て来る名犬種に出会える。子ども時代に夢中になって観たTV番組「名犬ラッシー」で有名なコリー。おとなしく品があり、初めての人にもそっと寄り添って来る。体毛が真っ白で顔と尾だけが黒と茶色の牧羊犬(シェパード・ドッグ)。ゴールデン・リトリーバーは、賢さと忠誠心を兼ね備えていて、親しみにあふれる顔と性格の犬として有名。元々は、水鳥猟でハンターが撃ち落とした獲物を陸地に持ち返る(=retrieve リトリーブ)役割を担う犬であったと言う(Wikより)。